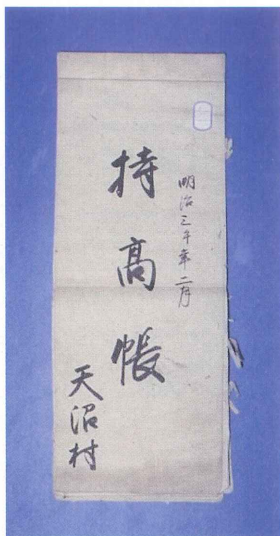
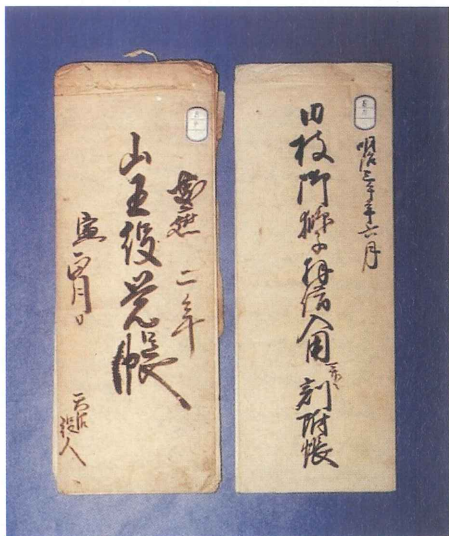


蓮華寺所藏文書



〔指定年月日〕平成元年三月三十一日  
 〔種別〕有形文化財（古文書）  
 〔名称〕蓮華寺所藏文書  
 〔点数〕五四四点  
 〔所有者等〕蓮華寺  
 〔所在地等〕本天沼二一七―八

## 蓮華寺所蔵文書

この文書は、天沼村で江戸時代に名主、維新後に副戸長を務めた森田文右衛門が主として作成した同村の公文書と同家の私文書である。昭和四九年（一九七四）、森田文右衛門の孫、時一氏がこれを蓮華寺に寄進した。

公文書作成の上下限は、天明六年（一七八六）の「田方内見毛附帳」より明治一三年（一八八〇）の「質譲地渡証」に至るもので、私文書作成の上下限は明治元年（一八六八）「不幸諸買物代金控簿」より明治一四年の「黽出前控帳」に至るものである。

主な内容と点数は、村政関係が一・二六六、土地関係が一・二六六、貢租関係が一・五四四で特に多い。土地・貢租に関する文書の割合が高いのは、地租改正関係文書が多いためである。また、年次的に見ると文書総数の七九%に当たる四三二点が東京府設置から同府における郡区の設置期までのものである。このような天沼村の行政文書のあり方から江戸幕府による支配から明治政府の支配体制が整えられていく過程における村落の実態をさぐることができる。なお天沼村は寛永一二年（一六三五）より日枝山王の社領であった。同社に対する負担は武家とは異なったものがあり、それが明治政府成立に伴いどのような変化をしたかをさぐる史実を本文書群が提供するとも考えられる。

### 【文化財所在地】

